

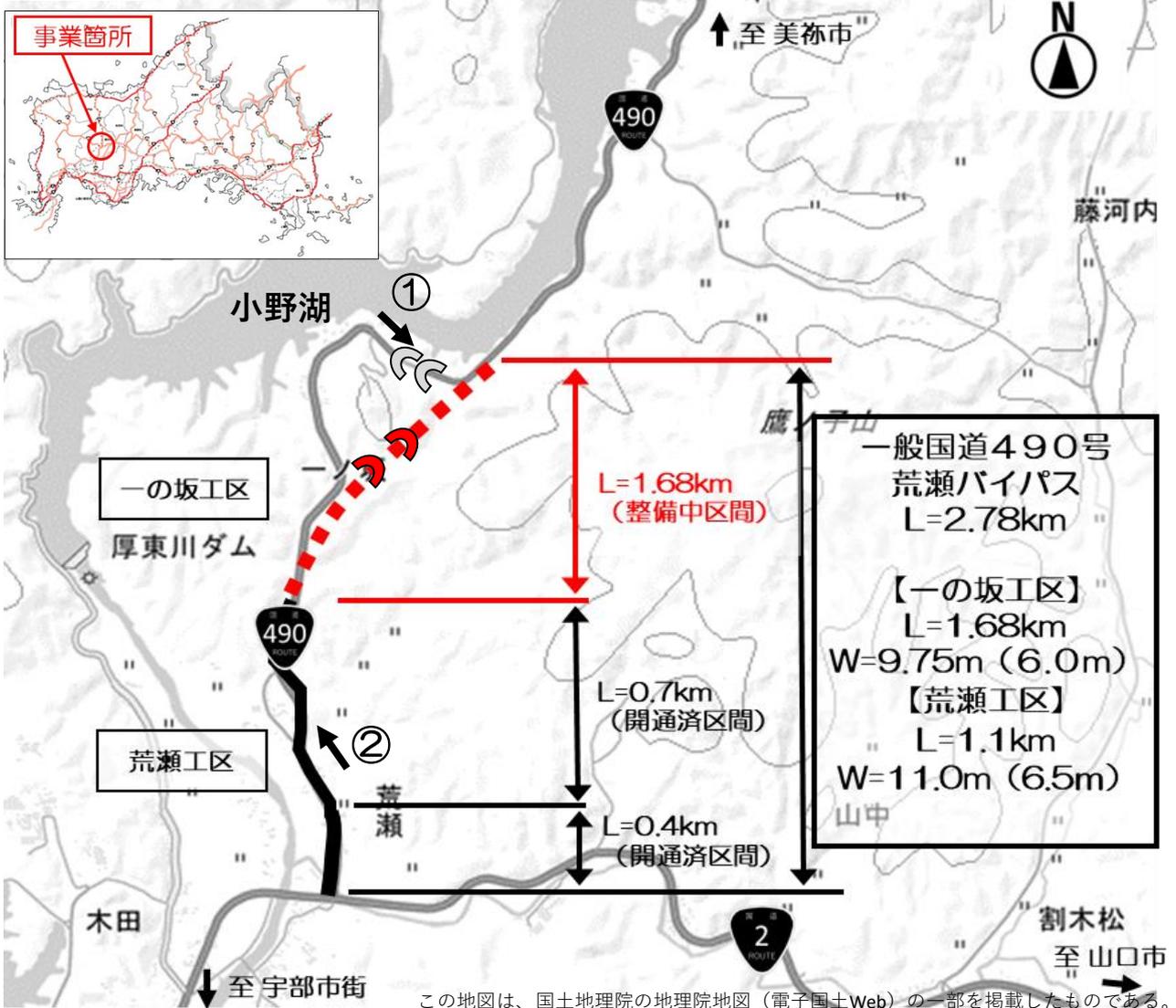
再評価項目調書

再評価実施要件		○ 事業採択後 (年) ○ 再評価後 (年) ● その他 (変化)												
1 事業 概要	事業名	一般国道490号 ^{あらせ} 荒瀬バイパス 道路改築事業												
	事業場所	宇部市上 ^{かみあらせ} 荒瀬 ~ ^{おの} 小野												
	事業主体	山口県												
	事業期間	《 前回評価 平成 30 年時 》 平成 6 年度 ~ 令和 9 年度 《 平成 34 年度 》 (西暦 1994 年度 ~ 西暦 2027 年度 《 西暦 2022 年度 》)												
	総事業費 (内用地補償費)	≪ 3,100 百万円 ≫ 3,600 百万円 (465 百万円)	既投資額 (内用地補償費)	2,140 百万円 (465 百万円)	進捗率 (用地補償費)	59 % (100 %)								
	事業目的	<p>一般国道490号は、宇部市常盤町の国道190号との交差点を起点とし、萩市山田の国道191号に至る主要幹線道路であるとともに、第1次緊急輸送道路に指定されている。</p> <p>しかしながら、当該区間は、道路幅員が狭く、線形も悪いことから、車両同士のすれ違いが困難な状況である。また、土砂崩れや落石等の危険性が高い箇所が複数存在しており、安全で円滑な交通に支障をきたしている。</p> <p>このため、当該区間の整備を行うことにより、安全で円滑な交通を確保することで地域住民の利便性や安全性の向上、広域交通拠点や3次救急医療施設へのアクセス性の向上を図るものである。</p>												
事業内容	<p>○延長 : L=2.78 km</p> <p>○幅員 : 【荒瀬工区】 全幅11.0m (車道3.25×2=6.5m 片側歩道2.5m) 【一ノ坂工区】 全幅9.75m (車道3.00×2=6.0m 片側歩道2.5m)</p> <p>○道路区分 : 【荒瀬工区】第3種第2級 : 【一ノ坂工区】第3種第3級</p> <p>○計画交通量 : 4,600台/日</p>													
事業効果	<p>○地域住民の利便性や安全性の向上。</p> <p>○広域交通拠点や3次救急医療施設へのアクセス性の向上。</p>													
2 再評価の 視点	(1) 社会経済情勢の変化	<p>社会経済情勢の変化に伴う必要性の変化</p>				<table border="1"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>a・b</td> <td rowspan="2">A ・ B ・ C</td> </tr> <tr> <td>中項目評価</td> </tr> <tr> <td>a・b</td> <td></td> </tr> </table>		中項目評価	大項目評価	a・b	A ・ B ・ C	中項目評価	a・b	
	中項目評価	大項目評価												
a・b	A ・ B ・ C													
中項目評価														
a・b														
関係市町及び地元の意向	<p>当該区間の整備については、宇部市の都市計画マスタープランに整備促進を行う事業として位置づけられているとともに、宇部市から早期整備の要望がある。また、地元住民は事業に協力的であり、用地買収も完了している。</p>				<table border="1"> <tr> <td>中項目評価</td> <td>大項目評価</td> </tr> <tr> <td>a・b</td> <td></td> </tr> </table>		中項目評価	大項目評価	a・b					
中項目評価	大項目評価													
a・b														

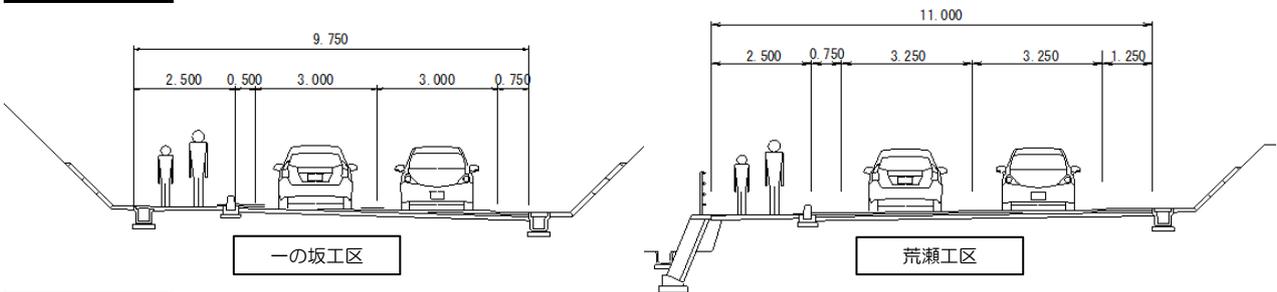
2 再評価の視点	(2) 事業の投資効果	費用対効果分析等	(単位：百万円)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">主な項目</th> <th colspan="3">今回(再評価) 再々評価</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>前回 (基準年：H30)</th> <th colspan="2">今回(再評価) (基準年：R4)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>全体事業</td> <td>全体事業</td> <td>残事業</td> <td></td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">便益 (B)</td> <td>①走行時間短縮便益</td> <td>5,585</td> <td>6,002</td> <td>4,863</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②走行経費減少便益</td> <td>973</td> <td>1,048</td> <td>850</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③交通事故減少便益</td> <td>122</td> <td>70</td> <td>68</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総便益</td> <td>6,680</td> <td>7,120</td> <td>5,781</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">費用 (C)</td> <td>①事業費</td> <td>3,932</td> <td>4,947</td> <td>1,033</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②維持管理費</td> <td>123</td> <td>135</td> <td>35</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総費用</td> <td>4,055</td> <td>5,082</td> <td>1,068</td> <td></td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>1.6</td> <td>1.4</td> <td>5.4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 便益(B)・費用(C)は、算出した各年次の値を割引率を用いて現在価値に換算した合計額</p> <p>【費用対効果分析手法】</p> <p>前回評価：「費用便益分析マニュアル」(H30.2) 基準年：H30 平成17年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p> <p>今回評価：「費用便益分析マニュアル」(R4.2) 基準年：R4 平成22年度道路交通センサスペース 平成42年推計交通量</p>	区分	主な項目	今回(再評価) 再々評価			備考	前回 (基準年：H30)	今回(再評価) (基準年：R4)				全体事業	全体事業	残事業		便益 (B)	①走行時間短縮便益	5,585	6,002	4,863		②走行経費減少便益	973	1,048	850		③交通事故減少便益	122	70	68		総便益	6,680	7,120	5,781		費用 (C)	①事業費	3,932	4,947	1,033		②維持管理費	123	135	35		総費用	4,055	5,082	1,068		費用便益比(B/C)	1.6	1.4	5.4		大項目 評価 A ・ B ・ C
	区分	主な項目	今回(再評価) 再々評価				備考																																																							
			前回 (基準年：H30)	今回(再評価) (基準年：R4)																																																										
			全体事業	全体事業	残事業																																																									
便益 (B)	①走行時間短縮便益	5,585	6,002	4,863																																																										
	②走行経費減少便益	973	1,048	850																																																										
	③交通事故減少便益	122	70	68																																																										
	総便益	6,680	7,120	5,781																																																										
費用 (C)	①事業費	3,932	4,947	1,033																																																										
	②維持管理費	123	135	35																																																										
	総費用	4,055	5,082	1,068																																																										
	費用便益比(B/C)	1.6	1.4	5.4																																																										
(3) 事業の進捗	事業の進捗と今後の見通し	<p>事業区間2.78kmのうち、荒瀬工区1.1kmは平成29年度に開通し、残る一ノ坂工区1.68kmは用地買収が完了していることから、引き続き計画的に整備を進める。</p> <p>【事業費の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無 事業費の増は、発生土を当該工区内及び他事業へ流用することとしていたが、一部区間において、土質が想定より軟弱であったため残土処分に変更したこと、及びトンネル施工時の安全確保に係るガイドラインの改正に伴い安全対策を強化したことにより工事費が増加したため。</p> <p>【事業期間の変化】 <input checked="" type="radio"/> 有 無 現道の状況を踏まえ施工計画を見直した結果、段階的に施工する計画としたため、事業期間を令和9年度まで延伸する。</p>	大項目 評価 A ・ B ・ C																																																											
(4) 代替案等の縮減の可能性	コスト縮減 代 替 案	<p>切土工・盛土工の施工にあたっては他の公共事業との土砂流用の調整を図る。</p> <p>利便性、経済性、施工性等を総合的に勘案し、最適なルートを選定していることに加え用地買収も完了していることから、計画どおり進めることが妥当と考える。</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">中項目 評価</td> <td style="text-align: center;">大項目 評価</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a・b</td> <td style="text-align: center;">A ・ B ・ C</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">a・b</td> <td style="text-align: center;">A ・ B ・ C</td> </tr> </table>	中項目 評価	大項目 評価	a・b	A ・ B ・ C	a・b	A ・ B ・ C																																																					
中項目 評価	大項目 評価																																																													
a・b	A ・ B ・ C																																																													
a・b	A ・ B ・ C																																																													
3 環境	配 慮 事 項	法面工について、緑化工法を採用する。また、低騒音・低振動の機械を使用する。																																																												
4 対応方針	総 合 評 価	● 継続 ○ 見直し継続 ○ 中止																																																												
	評 価 理 由	事業の必要性、費用対効果等を勘案し、事業継続が妥当と判断する。																																																												
	備 考																																																													

一般国道490号 ^{あらせ}荒瀬バイパス 道路改築事業

平面図



標準断面図



写真

